

28amG-005

薬学部入学生の入学時から6年間に渡る成績追跡調査：入学時成績と卒業時成績との相関

○川原 正博^{1,2}(¹九州保福大薬,²武蔵野大薬)

【目的】薬学部および薬系大学への入学生の学力には大きな幅がある。しかしながら、薬剤師がチーム医療において果たす重要な役割を考えると、卒業生が十分な学士力を身につけている必要がある。演者等は、6年制が開始された2003年度入学生に対して、入学直後に高校化学・生物学・物理学の習得状況を知るためのプレースメントテストを行い、期末試験の成績を6年間に渡って追跡調査し、解析を行った。

【方法】2003年度薬学部薬学科に入学した204名の学生に対して、入学直後にプレースメントテストを行った。各々の学生について学年年度末の成績順位、GPA値、6年次に行った演習試験（薬剤師国家試験準拠形式）との相関を解析した。また、プレースメントテストの成績上位、中位、下位グループ各10名についての比較も行った。

【結果及び考察】追跡調査の結果、入学直後のプレースメントテストの成績順位と卒業時の成績順位は全く相関していないことが判明した。一方、1年次後期末の成績順位と卒業時の成績順位は強く相関し ($r=0.90$)、その傾向は学年があがるほど強くなった。また、プレースメントテストの成績順位は6年次後期に薬学生としての知識の総まとめとして行った演習試験の成績ともまったく相関していなかった。さらに、プレースメントテストの成績上位、中位、下位グループ間では卒業時の成績および演習試験の成績には有意な差が無くなっていることも判明した。この結果から、初年次における教育の重要性が示唆される。